**平成30年度　第２回練馬区立生涯学習センター運営懇談会　会議要録（概要）**

１　日時　平成31年３月15日（金）　午後３時～４時50分

２　場所　生涯学習センター　第1教室

３　出席者　長田委員、井藤委員、川井委員、中島委員、岡本委員、長富委員、田村委員、

　　　　伊藤委員、鈴木委員、山本委員、菊地委員、押田委員(社会教育主事)

（練馬区）文化・生涯学習課長

（事務局）生涯学習センター所長、副所長

４　欠席者　なし

５　傍聴者　なし

６　次第

1. 挨拶

(2)　議題

　　①　平成30年度事業結果報告について

　　②　平成30年度施設利用状況について

　　③　平成31年度事業計画について

　　④　生涯学習センターの改修等について

(3)　その他

７　配布資料

　 資料１ 平成30年度事業結果報告（平成31年１月事業終了分まで）

　 資料２　平成30年度施設利用実績（平成31年１月事業終了分まで）

資料３　利用者アンケート結果

　 資料４　平成31年度事業計画（案）

８　会議の概要

(1)　挨拶

小沼　寛幸　文化・生涯学習課長挨拶

(2)　議題

①　平成30年度事業結果報告

所長から資料１に基づき説明（内容省略）

②　平成30年度施設利用実績

所長から資料２、３に基づき説明（内容省略）

　　<座長>　報告の内容について、ご意見をいただきたいと思います。

　　<委員>　資料１の新しい取組みとして、情報発信「あ・そ・ぶサイト」についてです。

　　　生涯学習団体が446団体の登録があるなかで、サイトへの登録は現在89団体。400近い団体の登録が目標なのでしょうが、これからなのかと思います。サイトを育てていき、みんなが利用できるようになるといいと思います。

　　　　盆踊り講習会に連日100名を超える方が受講していることはすごいと思いました。

　　　テレビでハワイの日系人の盆踊りが盆ダンスとして流行っているというので、異文化交流の一つになるのではないかと思いました、そこで、参加者は、常連の方が多いのでしょうか。また、参加者に外国の方がいらっしゃるのか伺いたいと思います。

　　<所長>　現在、生涯学習団体の登録更新手続きを行っており、登録団体すべてに「あ・そ・ぶサイト」（学びと文化の情報サイト）への登録をしませんかとお知らせを送っております。各団体がホームページを立ち上げるにはいろいろご苦労があるようですが、「あ・そ・ぶサイト」への登録は、申請書に必要事項を記入していただければ、こちらでサイトへのアップをしています。各団体からサイトへの登録申請をいただいているところで、今後の登録は増えるものと思われます。

　　　　前回の盆踊り講習会は、４名の外国の方の参加がありました。次回は、東京五輪音頭2020を行いますので、すそ野が広がるきっかけになればと思っております。

　<委員>　アンケート結果のところで、鍵の受け渡しの話がありました。朝を除く時間帯は、少し前から鍵が借りられるようになったとのことです。利用者として、朝９時から部屋を使う際に、少し前から借りられたらありがたいと思ったことがあります。

　　　　９月実施の区民将棋大会の小学生の部の定員が32名となっています。前の年は小学生が70名以上の参加があり、若年層の参加は増えています。定員が減ったことは残念です。運営上の都合も承知していますが、検討していただきたいと思います。

<所長>　施設の管理は、区の職員以外に委託の事業者も入っております。開館準備があり、現状では前倒しは厳しい状況ですので、ご理解いただけたら幸いです。

　　　　区民将棋大会は、アマチュア将棋連盟と調整し、多くの方の参加をいただけるように運営を行っております。小学生の参加については、前回多くの参加があったなかでいろいろな課題が出て、適正な運営を行うための人数調整をさせていただいたところです。定員については、今後検討して参りたいと思います。

<委員>　 盆踊り講習会に協力させていただいています。フェイスブックに載せたり、チラシを配ったりしています。区報掲載もされていますが、ＰＲについて行き届いていない部分もあり、今後はさらに考えていきたいと思います。

<委員>　資料を読んでの感想です。少子高齢化のなか、子供向け事業として、児童合唱団がありますが、生涯学習センターで子供向け事業があってもいいのかなと思いました。

　　　　生涯学習センターの利用者数に新たにできたココネリや地域集会所が影響しているという話は、私自身もそちらの利用が増えており、実感しています。新しい施設では事業があり、充実してきていると感じます。そのような中で、今後の生涯学習センターの役割はどうなっていくのだろうかと考えたりしました。

<委員>　青少年課から委託する講座のなかで、会場として生涯学習センターを利用する場合は抽選会に参加していますが、２か月前の一般抽選結果後に講師等が正式に決定するので、事業計画書どおりに進行させるのが難しく、委託先の団体からは、優先的に会場を確保できないかと声をきくこともあります。

<所長>　生涯学習センターでは、区民の方々の団体利用を優先しており、ホールを除いて原則、区が主催する公用利用としての優先予約を行わないようにしています。これまでの経過で一般団体と同様に２か月前の抽選から参加いただいています。

<委員>　施設使用料をみると手ごろな料金で使えていいなと思います。新たにサークル活動を始める方も使いやすいと思います。

<委員>　練馬の文化の発展のために努力していかなくてはと思っています。伝統芸能を行っていますが、以前は芸術というよりはお稽古事として礼儀作法として、お子さんが習う機会が多くありましたが、最近は核家族化で、家でお琴や尺八などに触れる機会が減ってしまいました。そのような中、努力が必要だと感じています。訪日外国人の方が、日本の伝統芸能に興味を持たれるという話も聞きます。一方、学校で取り上げていただくことも必要かと感じています。

<委員>　参考までに、秋田県の「なまはげ」が少子高齢化で人が減りできなくなっていたところ、留学生が面白いと興味を持ち、代わりにやりたいと「なまはげ」が立ち直ったという話を現地の人から聞きました。

<委員>　健康で、みんな仲良く自分の趣味を生かしながら行っていくにはどうしたらいいのか。要望を出したらきりがないので、限られた中で、できる範囲でやっています。趣味を生かして、仲間が楽しく一日を過ごすことができて、さらにそれを子供たちの役に立つように教えてあげることができればと思っています。

<委員>　区民文化祭、サークル文化祭で頑張っています。ご協力に感謝します。盆踊り講習会では、新曲「東京五輪音頭2020」を行いますので、皆さんの参加をお待ちしております。

<委員>　区立施設の予約は、４か月前から、３か月前から、２か月前からとあり、生涯学習センターは一番遅い２か月前です。施設の予約がパソコンで行えるようになり、早く予約できたほうが予定が組みやすいので、３か月前から予約できるようにならないかと思います。

<所長>　いろいろとご意見をいただきました。検討のお時間を頂戴したい案件もありますが、よりより施設となるように改善をして参ります。

<座長>　ご意見につきましては、事務局で精査していただきたいと思います。

　③　平成31年度事業計画について

所長から資料３に基づき説明（内容省略）

　　<座長>　いまの説明のところで、何かございますか。

　　<委員>　事業説明がありましたが、事業はひと、カネ、ものが揃ってできるものですので、予算面を調べてみました。予算書を見ますと、約２億円の経費が組まれています。それに人件費を加えると大体３億円近い経費がかかっているということがわかりました。

　　　　予算の大層を施設費が占めています。事業費はＥｎカレッジ、文化祭ともに550万円くらいです。予算の構成がわかるように予算額も資料に入れてもいいのではと思いました。予算の６～７割が施設管理ですので、この活動の場を維持することに多くの予算がかかっていることがわかります。

　　　　Ｅｎカレッジが協働推進課に移管されるという説明がありましたが、生涯学習センターの事業の柱の一つが移管されてしまうなかで、今後の生涯学習センターの事業を理念としてどうしていくのかわからないと感じてしまいます。

　　　　もう一点、少子高齢化と生涯学習という視点です。都道府県幸福度ランキングとう本によれば、１位は福井県、２位は東京都です。指標が都道府県ごとに異なりますが、東京は文化で突出しており、圧倒的です。一方、福井県は教育が１位です。社会教育、学校教育も１位です。少子高齢化の視点で見ると、高齢者のボランティア活動比率が高く、高齢者の有業率が５位と高いです。生涯学習と直結はしないとしても、学ぶこと、仕事、ボランティアを通じて高齢者の活動が盛んであるということは幸せの指標の一つであり、とても重要であると感じました。

　　　　生涯学習センターのホームページには場の提供とあります。70万人区民の場としては、センターと分館の２か所です。今後、場の提供を増やす手立ても考えないといけないのではと思います。そこを踏まえて施設改修の検討ではと思います。

　　　　最後に、区が実施する生涯学習はコミュニティーとセットでなければなりません。そうでなければ個人の活動と変わりません。コミュニティーとセットという本質を突き詰めて、今後どうするかを考えたほうがいいのではと思います。

　<座長>　テレビで、地方の高齢者の方が仕事を上手く使っている例をいくつか見ました。それがいいアルバイトとなって、生き生きと活動しています。

　　　公民館では、社会教育という縛りがあるが、生涯学習ではより広く活動できるということで、地方でも変わってきています。区内でも地域集会所など公民館の機能を持った施設は多数あります。

　　　生涯学習の中心としての生涯学習センターの今後は、場の提供をメインにするのかということがあります。人材育成事業の協働推進課への移管でどうなるのでしょうか。

<所長>　委員のご発言から貴重なキーワードをいただきました。人材育成事業のＥｎカレッジが移管されることで、事業の軸足をどうするか考えていかなければなりません。ただし、区民の皆様の活動を支援していくということには変わりはありません。文化活動について、プロの文化活動が盛んになるには、それを鑑賞する方、区民の活動が下支えとなって文化活動のすそ野が広がっていくということがあり、その支援をする場は、生涯学習センターだと思っています。区民の皆様の学びを支援していくことと場の提供は今後も大切な柱になっていくと思いますので、今後も充実させていきたいと思います。

　<座長>　区民がいろいろ活動しているので、是非今出された意見を参考にしていただきたいと思います。また、活躍の場を作っていただきたいと思います。お互いに協働できればいいと思います。

　　他になければ、次に移ります。

④生涯学習センターの改修等について

　　所長から説明（内容省略）

<座長>　皆さんのご意見で取り入れていただけたらということがありましたらお願いします。舞台、部屋それぞれご意見をお願いします。

<委員>　ホールの舞台利用にあたり身障者向けの設備がありません。客席から舞台に上がる階段に手摺、つかまるところがなく、健常者でも不安があります。ホール客席横の非常口は、階段を上って外に出るようになっていると、それでは車いすや高齢者の方は舞台を安心して利用することができません。

<座長>　舞台上からの車いすでの避難経路については、検討をお願いします。ほかにいかがでしょうか。

<委員>　展示パネルが重くて大きいので、軽いものにならないでしょうか。展示ケースのガラスも重いです。

<委員>　防音設備をして、太鼓が打てるようにしてほしいです。

<委員>　物品の搬入に車を使います、駐車場がもう少しあると助かります。

<委員>　ホールを使うとき、図書館に音が響かないようにと言われることがあります。

<委員>　光が丘の学校が統廃合で転用され、その一つに、文化交流ひろばがあります。その流れの中で、生涯学習の場を増やしていくこともできるのではと思います。中長期的に区としても方向性を考えていかれるのだろうと思います。

　<座長>　場の提供と中身をどうしていくかというテーマは大事なことです。

<委員>　場の提供とコミュニティーをつくることは大事だと思います。高齢化で一人暮らしが増えています。やはり健康長寿が理想です。何かしてみようと思っても、団体に所属していないと活動に参加できず、個人利用には制約があります。長野県では、施設で時間割のように、年齢や体力などに応じて選べるそうです。生涯学習センターの作品展などを見ても高齢化が進み、若い人の参加が進んでいないことがわかります。個人が、区立施設にふらっと来ても気軽に参加できてコミュニティーの輪に入れるものがほしいと思います。

<座長>　サークルや団体に入ると役割があって、それが重荷だという声もあり、自分が好きなことを探してから団体に入るという人もいるようです。近くの区立施設で一日中いろいろなことを行っていて、そこで自分探しができたらいいと思います。なかなか難しいとは思いますが。

　　いろいろご意見をいただきました。最後に、副座長からお願いします。

<副座長>　生涯学習センターとしてのあるべき姿、ターゲットとする年齢層をどうしていくのかという問題を考えていくことが必要になったと思います。今までの蓄積があって、事業を行ってきたなかで皆さんが感じられていることと思います。

　　残念だと思ったことは、募集人数よりも参加者が少ないことです。我々のサークルも縁ジョイ倶楽部に参加しましたが、地域でコミュニティーがとれそうな人たちが十分拾い上げられていないと感じました。そこの部分は、サークル間で知恵を出して、口コミなどのコミュニケーションで人集めをするなどの工夫ができるのではないかと感じます。我々が募集をセンターに任せるのではなくて、一人一人が動くことで新たなコミュニティーを作っていくことが必要だと感じます。

<委員>　我々アマチュアでも精神はプロでということだと思います。

<座長>　皆さんのご協力で今後とも盛り上げていきたいと思います、どうぞよろしくお願いします。